

■厚生労働省「看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針」：Ⅰ～Ⅳ

◎良い ○まあ良い △努力 ×関連がない

カテゴリー	評価内容と基準	R4	R5	評価理由
Ⅰ 教育理念	1 卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるか	◎	◎	教育計画の中で網羅し、表現している。資質や教育理念・教育目的の意義と周知については、建学の精神をもとに教育理念・教育目的・教育目標(DP)・DPの構成要素・看護実践能力で示している。DPを達成するための教育課程を編成し、カリキュラムポリシーの中で看護専門職についての考え方、看護教育についての考え方や教育観、APの中で学生観を示している
	2 育成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているのかについて述べているか	○	○	
	3 看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっているか	◎	◎	
	4 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか	◎	◎	
	5 自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性があるか	◎	◎	
Ⅱ 教育目標	6 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか	◎	◎	教育目標(DP)は、教育理念・教育目的の一貫性を持ち、目標内容の側面と、達成レベルの側面を網羅している。また、卒業時の到達レベルとして提示してある。DPは備えるべき能力として設定し、DPごとにその構成要素を示し、進度に合わせた学年別の到達目標も設定している。
	7 教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示しているか	◎	◎	
	8 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定しているか	◎	◎	
	9 教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的に実現可能な目標として明示しているか	○	○	
	10 教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか	◎	◎	
Ⅲ 教育課程	11 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っているか	◎	◎	カリキュラムデザインはツリーやマップで構造化し、教育理念・教育目的達成に向けての指針としながら活動している。単位認定の方法はシラバス上に提示しているが、詳細は授業開始時の担当教員から提示している科目もある。他の高等教育機関との単位互換についてはシステム化されている。科目評価は履修経過に合わせて教員間で随時、行っている。新カリキュラムの評価結果から、単元間の重複や整合性において整備を要するものが明らかになり調整もしている。次年度は新カリキュラム1回生の履修が終わる年度であるため、教育課程全体の評価、分野と領域評価についての計画を具体化し、再構築していく。
	12 教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成しているか	◎	◎	
	13 科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしているか	◎	◎	
	14 単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっているか	◎	◎	
	15 科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか	◎	◎	
	16 単位認定の基準(設定)および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか	◎	◎	
	17 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか	◎	◎	
	18 教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用における倫理的規定が明確になっているか	◎	○	
	19 担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えているか	△	△	
	20 教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えているか	○	○	
	21 臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	○	○	
	22 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えているか	○	○	
Ⅳ 教授・学習・評価過程	23 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしているか	◎	◎	実習施設との連携は会議や打ち合わせ、反省会等を行っている。新カリキュラムでの実習運用については、組織間でさらに調整を深めていく必要がある。情報管理・安全や倫理的な配慮については理念やマニュアルは作成してある。常に行動できるよう継続的な取り組みを行う。
	24 臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしているか	○	◎	
	25 当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか	◎	◎	
	26 授業内容のまとまりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	○	○	
	27 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	○	○	
	28 当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	○	○	
	29 履修形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか	○	◎	
	30 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	○	○	
31 当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	○	○	科目構築、授業内容、方法等つながりや関係性について考慮し計画している。外部講師にはそれらを意識し依頼しているが、反映されないこともある。理解を得るための意見交換や依頼、もしくは新たな講師の選定をしていく。校内における教員間の協力体制は概ね整っているため、非常勤講師との体制も充実させていく。学習の深化、発展するための方法、効果的な教育指導という点においては、複数科目での課題の重複や時間割のバランスの偏り、自己学習時間活用の不得手さ等が見られるため、学習支援の見直しや学習環境の調整について検討していく。また、時系列での状況把握と分析、学びにとっての重要な要素の精選、ICT環境の活用をしつつ学生が学びやすい状況を作っていく。	
32 学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間の協力体制を明確にしているか	○	○		
33 評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	○	○		
34 可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	○	○		
35 評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表(認定基準等)し、公平性があるか	○	○		
36 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって、学生の学習への動機付けと支援になっているか	◎	◎		